

吹田市議会 すいた市民自治 〒564-8550 大阪府吹田市泉町1丁目3番40号  
TEL:06-6384-1231 (代表) E-mail: info@shimin-jichi.net URL: http://shimin-jichi.net

「すいた市民自治」会派は「市民が主役の社会」の実現をめざし、活動してまいります。

## 議員定数削減条例は否決（賛成 12、反対 22）

3月議会最終日、3人（公明党2人と民主市民連合1人）の議員が提案者となって議員定数を36人から34人に2人削減する条例案が提案されました。提案理由は「地方分権から地方主権の流れの中、議会改革の方向を提示する時代になってきている。目に見える改革の一つとして、議員定数の削減は避けられないものと認識している」ということでした。

思い起こせば2年前の平成23年3月議会、前任期の最後の議会で、4人削減する条例案が公明党議員団から提案されるのをきっかけに、議員報酬や政務調査費、期末手当などを削減する条例案が他の会派からも提案され、合計6本の条例案の提案があり、結局、どの案も過半数の賛成を得ることができず共倒れになったことがありました。（すいた市民自治は議員報酬の削減と期末手当の役職加算を削減する提案をしました）

前回、私たち「すいた市民自治」は議会改革の一つだとして提案された定数削減に反対しました。反対理由は、「定数削減は議改革ではない。定数削減は、市民の多様な意見が

反映されにくくなり、議会活性化に逆行する恐れがある」ということでした。

今回の提案への態度は賛成（西川）と反対（いけぶち）の二つに分かれました。

賛成した西川の考えは、議会定数の削減は議会改革とは無縁のものだ。しかし、最近の選挙などでの有権者の投票行動には議会に対する根深い不信を感じる。議会として十分な改革を市民に提示できていない以上、主権者である市民の批判に何らかの形で答えざるを得ない、というものでした。

反対したいけぶちの考えは、定数削減は議会改革ではなく、議員や議会の質を上げることが議会改革であること、そして提案理由が2年前と同じだったことです。

提案議員に対して3人が質問し、討論では賛成討論1人、反対討論5人でした。

\*詳細は、3月27日の議会最終日の議事録あるいはインターネット録画中継をご覧ください。

（文責 いけぶち佐知子、西川たけお）

## 「すいた市民自治」会派議員からのメッセージ



「いけぶち佐知子」は、「未来にまっすぐ 市政にまっすぐ」をモットーに、みなさんとともに、市民自治を目指して、まっすぐに取り組んでいます。



安心して暮らせる町、その原点は平和です。戦後の日本を育んできた「平和」と「自由」、そして「民主主義」を大切にしていきます。安心して暮らせる町「吹田市」その実現を目指します。

### いけぶち佐知子



ブログもどうぞ

<http://blog.goo.ne.jp/gogonet21/>

### 西川たけお



ブログもどうぞ

<http://ameblo.jp/nishikawatakeo/>

## 3月議会代表質問（西川たけお）

## 平成25年度予算について

**質問** 基金の取り崩しと借金のバランスをどう考えるか。また、臨時財政対策債の発行は制度上も無理があるし、必ずしも後年度の交付税措置されるものではないと考えるがどうか。

**回答**【市長】将来に負担を先送りしないという方針から、まず赤字地方債を出さないという方針である。

**回答**【行政経営部】臨時財政対策債の制度は、地方の借金を国がまた借金して補うという構造で持続性が乏しいと考えている。また後年度の収入状況に応じた基準財政収入額によって臨時財政対策債の交付税措置は影響を受け、保証されたものではない。

## 老朽化した消防団詰所の更新は

**質問** 震災時には消防団は消火活動にとどまらず、要救助者の検索や救助、危険個所の警戒などをされた。これは活動地域と居住地域が重なるという消防団の利点があるからだ。しかし、その拠点である詰所が老朽化している。方針を示せ。

**回答**【消防本部】地域に密着し、住民の安心と安全を守る重要な役割が消防団にはある。阪神淡路大震災以降、7か所の分団詰所を整備した。今後も適切に対応し、充実強化に努める。

## 木造家屋の耐震補助について

**質問** 兵庫県南部地震から日本列島は地震の活動期に入ったと言われている。減災で重視される一つに木造家屋の耐震化がある。しかし、検査済証がないため改造補助が受けられないと思っている方がおられる

ようだ。その対応はどうなっているか。

**回答**【都市整備部】木造家屋の耐震化への補助の要件は、「建築基準法適合」「建築確認を受けていること」であり、検査済証は要件ではない。更なる啓発に努める。

## 障がい者就労支援の事業団創設について

**質問** 以前に障がい者就労支援の一つとして事業団創設も視野に入れた協議をするとの答弁があった。万博公園南エリアの開発が始まろうとしている。雇用の場としての期待がある。どうなっているか。

**回答**【福祉保健部】万博南プロジェクトの進捗に間に合うように社団法人の創設を考えている。主たる市内障がい者の法人に呼び掛け、副市長を座長にラウンドテーブル方式で進めている。

## 3月議会個人質問（いけぶち佐知子）

## 吹田まち案内人の受付を一元化せよ

**質問** 吹田まち案内人の受付は歴史文化まちづくりセンターが主で、観光センターは従であると聞いている。受付業務をJR吹田駅前にある観光情報の受発信の拠点である観光センターに一元化すれば、市全体のまち案内人であることが市内外に周知で

き、申し込みもわかりやすく、観光振興政策の推進に繋がるのではないかと。

**回答**【まち産業活性部長】観光センターで直接、吹田まち案内人がまち歩きの受付やコーディネイトができる体制等、利用者にとり有益な観光施策を検討する。

## 駐車料無料になるパスカード交付先を見直せ

市役所駐車料金は使用料である。パスカード（定期券）は①市議会議員②府議会議員③国会議員④行政委員会委員⑤報道関係者⑥市長が特に認めたものに貸与している。

**質問** ⑥のうち、議員秘書や事務員は雇用者が駐車料を負担すべきである。また前議員事務所や公的な会議に頻繁に出席する理由で特定の市民に貸与するのは平等原則違反である。⑥の対象者への貸与はやめよ。

**回答**【総務部長】市政運営上必要な用務で

来庁しており、交付は市長の裁量権である。

**質問** パスカードの貸与を総務部長が判断し許可しているが、使用料減免の許可権者は市長であり、条例違反ではないか。

**回答**【総務部長】精査し、様式に遺漏があれば直し、瑕疵があれば是正したい。

\*議会後、総務部長に尋ねたところ、申請・許可書は総務部長名から市長名に変更し、⑥の対象者への交付について顧問弁護士に相談中とのこと。

## 花苗支給方式を見直せ

緑あふれる未来サポーター事業の目的は、市民による市内の公園・道路などの美化推進による、緑豊かな愛着の持てるまちづくりである。事業推進に伴い、市が支給する花苗購入費が増加し、予算不足による事業の行き詰まりが懸念される。現在の吹田市の花苗購入費は1株平均約130円である。大阪市の種から育てる地域の花づくり事業は、市民の緑化リーダーが育苗し、管理運営費を含め苗費は1株平均約90円である。

**質問** 種から苗を育てれば、予算削減はもちろん、緑あふれる未来サポーター事業の

目的にも合致し、サポーターの達成感にもつながるのではないかと。

**回答**【道路公園部長】育苗に必要な材料の支給方法等の支援策、種から育てた苗の活用や体制の整備等を検討する。

**質問** 花とみどりの情報センターで育苗サポーター養成講座を実施し、種から花苗を育てる方式に転換してはどうか。

**回答**【道路公園部長】H25年度から新たな指定管理者でスタートする花とみどりの情報センターの講座等を積極的に開催し、緑化サポーターの養成促進を図っていく。

## 「財政非常事態」って、どんな？

井上市長は、就任直後の2011年（平成23年）5月16日に「財政非常事態宣言」を出されました。

過日、市民団体からの要請で「財政非常事態宣言と財政の実態」というテーマで話すことがありました。その報告も兼ねて少し市政のお話をします。

アプローチの仕方としては、まず、市の財政事情を述べ、次に他市との比較について説明します。

市長が非常事態宣言をされたのは、吹田市の予算が慢性的に赤字体質にあったからです。（表1、図1）また市税総額も低減傾向にあります。（表2、図2）

また、これらは現状ですが、将来的に危惧される事情としては、国民健康保険特別会計

の累積赤字（3,761百万円、平成23年度決算）、市民病院の累積赤字（5,363百万円、平成23年度決算）、公共施設の維持補修費があります。

毎年のように赤字地方債を発行し、財政調整基金を取り崩していることと合わせると、かなり厳しい財政状況です。

一方で、他市と比較しますと、公債費比率は7%と府内自治体平均の10.1%を下回り、地方債残高も下から3番目くらいです。また、地方税の額も府内で5番目、個人市民税は2番目に多く、豊かな自治体に属しています。

市の抱える財政上の問題と、他市から見れば豊かともいえる吹田市、このバランスに市民の声に耳を傾けながら取り組んでいきます。

（文責 西川たけお）

**表1 基金取崩しと対策債発行（決算）**

（百万円）

	H19	H21	H23	H25(予算)
財政調整基金取崩し額	1,100	2,100	250	1,700
臨時財政対策債発行額	2,000	2,500	0	0
財政調整基金残高	10,920	9,324	9,269	5,005
赤字地方債残高	30,865	29,905	28,835	23,358

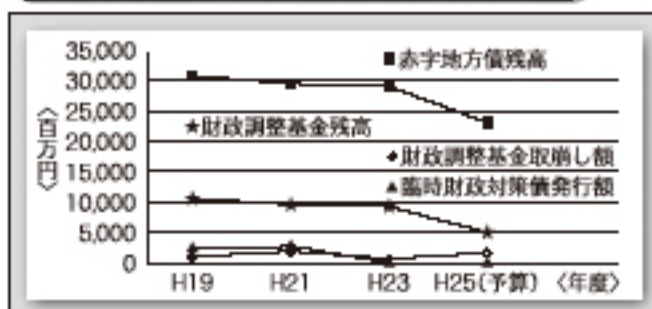
※2011年度（平成23年度）は、阪口市長の当初予算では、財政調整基金の取り崩し額が48億円、臨時財政対策債の発行額が37億円が予定されていました。

**表2 市税決算額の推移**

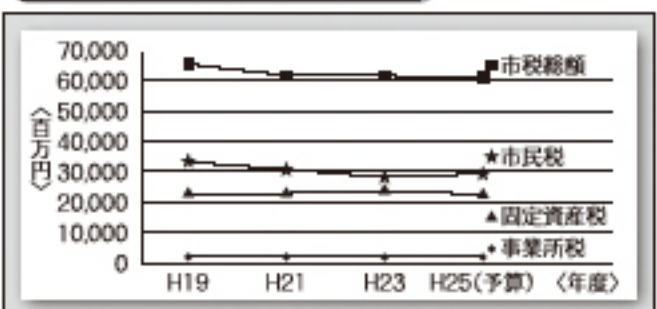
（百万円）

	H19	H21	H23	H25(予算)
市税総額	65,858	62,649	61,851	60,843
市民税	33,939	30,553	28,938	29,517
固定資産税	23,488	23,888	24,391	23,081
事業所税	1,052	1,033	1,005	1,015
その他	7,379	7,175	7,517	7,230

**図1 基金取崩しと対策債発行（決算）**



**図2 市税決算額の推移**



議会や市政について、皆様からのご意見をお待ちしています。